

清流の国ぎふ

地歌舞伎 勢揃い公演

初秋

飯地五毛座歌舞伎保存会 (恵那市)

恵那市飯地町には六つの集落があり、各集落では、江戸時代後半から神社の拜殿を舞台にした奉納芝居が行われてきました。昭和二十六年に、まちの中心部に舞台と両花道を備えた芝居のできる公民館が建設され、地歌舞伎の上演や保育園などに活用されました。昭和五十九年に、別の場所に新たに公民館が建設されると、旧公民館は「五毛座」と命名され、以来、地歌舞伎専用の芝居小屋として親しまれてきました。平成二十二年には国の登録有形文化財に登録されました。当保存会は、昭和二十七年に結成された「歌舞伎同好会」が前身です。昭和三十年頃には「飯地歌舞伎保存会」、平成十六年には現在の「飯地五毛座歌舞伎保存会」と改名し、地域の春祭りの余興として地歌舞伎を上演しています。また、平成九年からは飯地小学校の児童による「子ども歌舞伎」を立ち上げ、敬老会の余興として公演を行うとともに、担い手づくりにも取り組んでいます。今後も地域の伝統芸能の保存・伝承に努めて参ります。



串原歌舞伎保存会 (恵那市)

恵那市の最南端 串原は、面積の多くを山林が占める自然豊かな地域です。愛知県豊田市と境を接することから三河地方の影響を受け、江戸中期に村人たちの娯楽として歌舞伎が始まりました。昭和中期に一時衰退するも、昭和四十六年に当保存会を結成し、翌々年には第二回公演を開催しました。さらに、昭和五十六年からは次世代育成のため、子ども歌舞伎にも取り組み始めました。串原小学校における「ふるさと学習」の二環として、歌舞伎を学び・体験する活動を取り入れ、同年の村の文化祭で初公演し会場を沸かせました。以降、毎年子ども歌舞伎を続け、現在では毎年十一月の串原文化祭にて、大人二幕、子ども一幕を上演しています。

平成六年には串原の歌舞伎が串原村無形民俗文化財の指定(現在は恵那市指定)を受け、また、令和元年度には永年の活動が評価され、岐阜県伝統文化継承者表彰を受けました。今後も、地域が誇る伝統文化の保存・継承のため、活動し参ります。



地芝居の魅力発信「WEBミュージアム」

保存団体による公演情報やアーカイブスなど、魅力あふれるコンテンツを発信中



地芝居大國ぎふ WEBミュージアム

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル



地歌舞伎勢揃い公演の動画を配信中!



次回公演のお知らせ

清流の国ぎふ

※詳細はホームページにてお知らせいたします。

地歌舞伎 勢揃い公演

秋

11月12日(日) 秋公演

出演：気良歌舞伎保存会(郡上市)
高雄歌舞伎保存会(郡上市)



地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

「清流の国ぎふ」文化祭2024さきかけプログラム

地歌舞伎 勢揃い公演

初秋

2023年9月9日(土)

会場 **ぎふ清流座**(ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール)

◆ 開演 14時00分 (開場13時00分)

◆ 上演外題・出演

14時00分 (60分)

妹背山 綿ゆめ庭割 御膳の場

飯地五毛座歌舞伎保存会(恵那市)

15時20分 (90分)

いちのたにふたばぐんき くまがいじんや

串原歌舞伎保存会(恵那市)

終演 16時50分(予定) 演目等は変更となる場合がございます。



飯地五毛座歌舞伎保存会

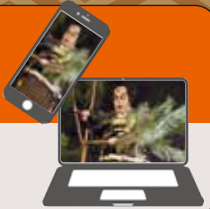


串原歌舞伎保存会

ライブ配信

公演の様様をぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネルで配信します。

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル



イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。

南山大学名誉教授 東海学園大学客員教授 安田 文吉氏



妹背山婦女庭訓

御殿の場

飯地五毛座歌舞伎保存会(恵那市)

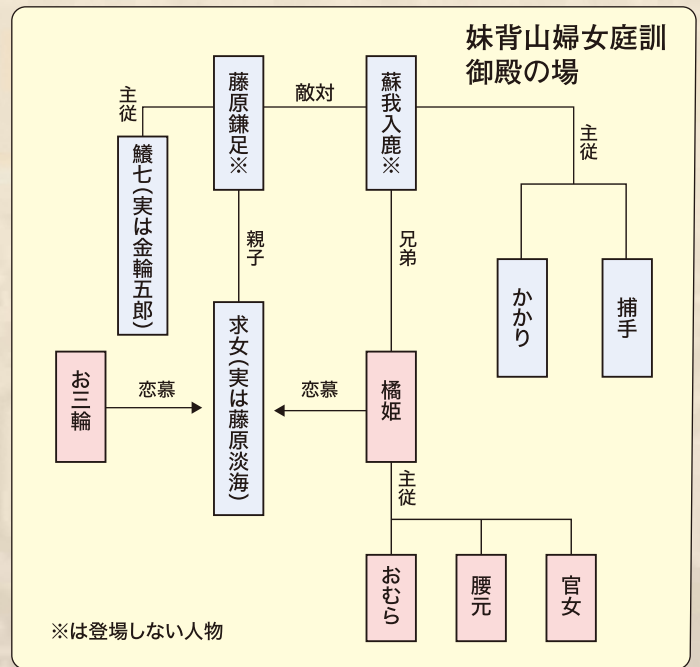
天智天皇が統べていた奈良の飛鳥時代。三笠山の御殿へ帰ってきた蘇我入鹿の妹橘姫。腰元が迎え入れ、姫の振袖に縫い付けられた糸に気づき、糸をたどると求女(実は藤原淡海)が現れます。求女は敵方の姫を取り入れるため、結婚を条件に味方につけます。

一方、糸が切れてしまったお三輪も、三笠山の入鹿の御殿へと迷い込みますが、橘姫と求女の恋路の邪魔はさせまいと、屋敷の官女たちが、寄ってたかってお三輪に嫌がらせをします。傷心のお三輪は、挙句の果てに御殿に忍び込んでいた藤原鎌足の家来鱧七(実は金輪五郎)に都合よく切られてしまいます。鱧七によって、入鹿の出生の秘密や、恋人の求女が実は鎌足の息子で、身分違いの相手だと正体を明かされた悲恋のお三輪は、無念ながら自分の生血が、シカの血が流れる不死身の入鹿を倒すために必要な嫉妬に狂った女の血として、討伐のための笛に使われると知ります。報われずとも恋しい求女の手柄となり、未来で結ばれるのだからと、苦環を抱いて死んでいくのです。

御殿の場最後は、お三輪の血の注がれた笛持つ鱧七こと、金輪五郎を捕えんと、捕手たちが立ちほだかり、大立ち回りを演じ、見得を切つて幕が下ります。

◆配役

求女(実は藤原淡海)	伊東将昭	九重の局	瀬瀬紀博
橘姫	瀬瀬ゆいか(高校2年生)	八重の局	肥田敏雄
お三輪	瀬瀬ほか(大学2年生)	おむら	小野優人
鱧七(実は金輪五郎)	各務昭一	かかり	山口鉦一
腰元松ケ枝	瀬瀬千恵美	捕手	瀬瀬高裕
腰元梅ケ枝	保母 柚美(高校生)	保母 仲治	保母 仲治
紅葉の局	瀬瀬高裕	瀬瀬紀博	瀬瀬紀博
桜の局	保母 仲治	肥田敏雄	肥田敏雄



一谷嫩軍記

熊谷陣屋

串原歌舞伎保存会(恵那市)

堀川御所で、君主の源義経から「一枝を伐らば一指を剪るべし」とかかれた制札(立て札)を受け取った熊谷次郎直実は、その謎めいた文章から、平敦盛を助けよという義経の心を察します。

一ノ谷の合戦で敗れた平家方は、こぞつて味方の船の方へ逃げますが、敦盛を呼び止めた熊谷は、それを組織いて首を討ちます。

熊谷が自分の陣屋に戻ると、妻の相模が、一子小次郎の安否を気遣って国許から出てきます。熊谷が敦盛を討つたことを話すと、奥から敦盛の母藤の方が現れて切りかかります。

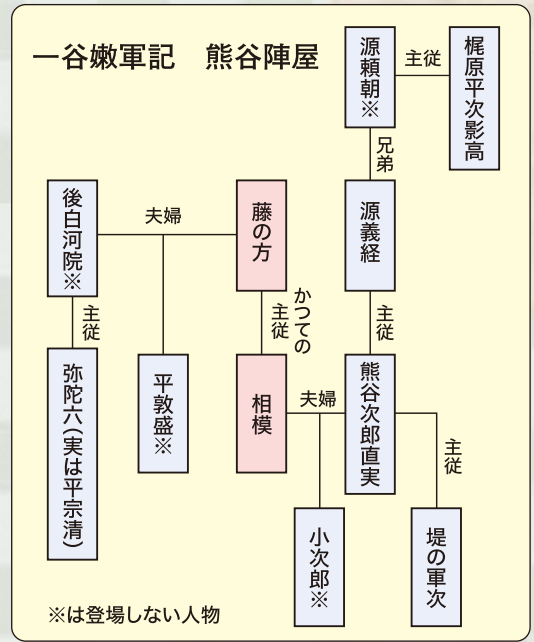
熊谷は丁重にそれを制し、合戦の様相を物語ります。やがて義経が家来を引き連れて熊谷の陣屋を訪れ、首実検となりますが、首は意外にも小次郎のものでありました。熊谷は義経の心を察して、小次郎を身代わりに立てたのでした。我が子の首を抱きしめ、嘆き悲しむ相模。

一方、石屋の弥陀六は、敦盛の石塔を建てたことから捕らえられています。義経はそれを伏見の里で助けてくれた平宗清であると見破り、敦盛の入っているよろいびつと与えて旧恩に報います。

熊谷は暇を願い出て、出家し小次郎のあとを弔うため、黒谷の法然のもとへと立ち去っていきます。

◆配役

熊谷次郎直実	大島秀治
妻相模	三宅恵里奈
弥陀六(実は平宗清)	三宅勝彦
梶原平次影高	安藤博一(友情出演) 矢作町歌舞伎保存会
堤の軍次	安藤寿崇(友情出演) 矢作町歌舞伎保存会
藤の方	堀珠紀
源義経	三宅康弘
軍兵	勝田生成
家来	勝田生成
	勝田生成
	三宅裕実



イヤホン同時解説

安田 文吉氏

日本近世文学、近世芸能文化研究者。東海学園大学客員教授。南山大学名誉教授。日本歌謡学会常任理事。東海近世文学学会代表。名古屋芸能文化会代表。名古屋三曲連盟理事長。令和元年度名古屋市芸術特賞受賞。著書に『常磐津節の基礎的研究』(和泉書院、一九九二年、東洋音楽学会田辺尚雄賞受賞)、安田徳子氏との共著に『歌舞伎入門』(おうふう、一九九五年)、『ひだまの地芝居の魅』(岐阜新聞社、二〇〇九年)などがある。



協力

振付指導	松本団女
大夫	竹本賀桐
三味線	豊澤賀祝
下座	松本奈津美
顔師	松本瑠奈
床山	松本宙士
着付	松本茂み
衣裳	松本匠平
	松本真由美
	林まゆみ
	小川厚子
	松本衣裳